ASTROMA

ASTRO セミナー 2022.4.3

米国 UFOレポート ~2021.6~

発行までの経緯

UNCLASSIFIED



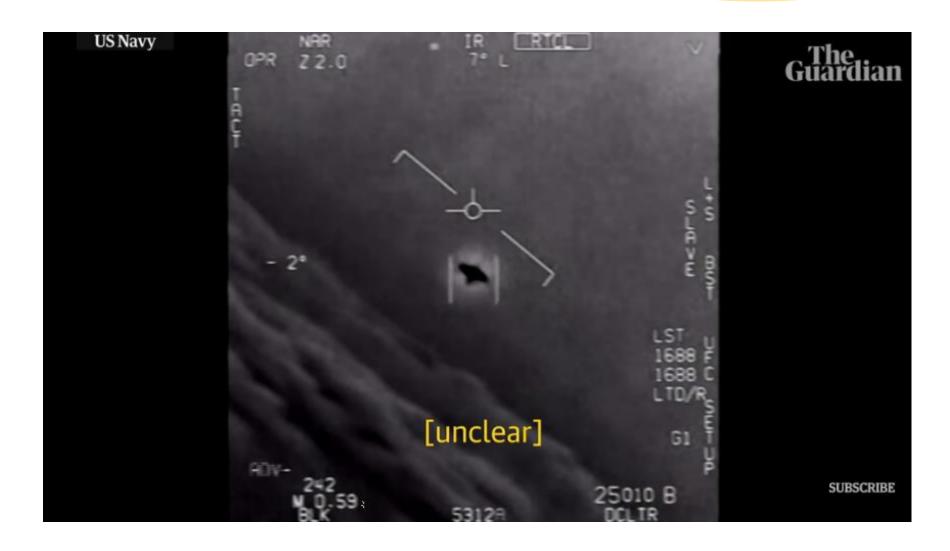
OFFICE OF THE DIRECTOR OF NATIONAL INTELLIGENCE

予備評価:UAP(未確認空中現象)

Preliminary Assessment: Unidentified Aerial Phenomena

25 June 2021

2017年12月





2020年6月

上院情報委員会

[United States Senate Select Committee on Intelligence]

高度な航空の脅威:Advanced Aerial Threats

- ・海軍情報局 UAPタスクフォース が、 実施している UAPの 敵対する外国政府との関係分析 UAPの 米国の脅威に関する 情報収集 を 標準化する取り組みを支援している
- ・しかし、UAPに関する情報収集や分析に関し、 政府内の統一された包括的なプロセス が存在していないことを懸念

上院情報委員会

[United States Senate Select Committee on Intelligence]

2020年12月

・国防長官と他の機関の長と協議し、法の制定日から180日以内に議会に UAPに関する政府内の情報に関して、報告書を提出するよう DNI (国家情報局) に指示。 UNCLASSIFIED



OFFICE OF THE DIRECTOR OF NATIONAL INTELLIGENCE

予備評価:UAP (未確認 空中現象)

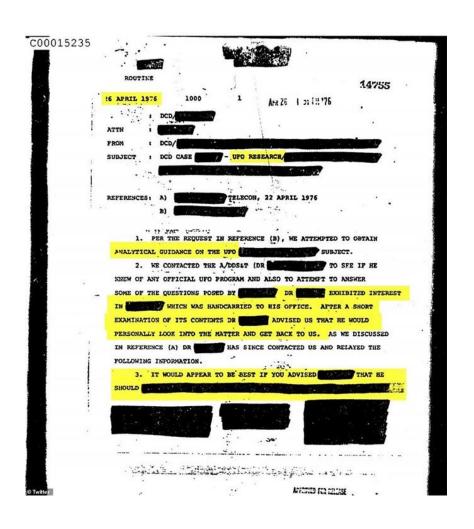
Preliminary Assessment: Unidentified Aerial Phenomena

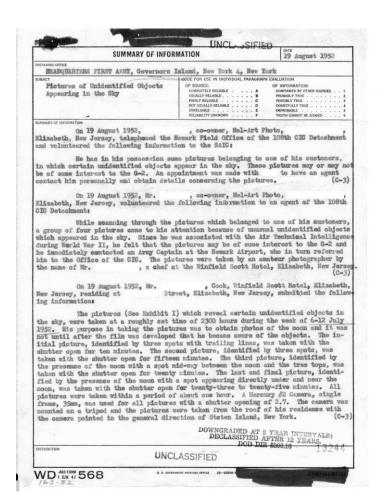
25 June 2021

その内容とは「

既に 調査・ファイル済

2004年 から 2021年 までの | 44件





報告書のUAP:5つのカテゴリー

空中クラッター (レーダー反射の際に発生する、不要な電波) 鳥、風船、ドローン、その他の無人機

自然大気現象 気象関連の現象およびその他の天然資源

政府または業界技術 米国の事業体によって開発された技術

外国の敵対システム ロシア、中国などの可能性のある技術

その他 データ不足。解釈に 更なる知識が必要

報告書のUAP:5つのカテゴリー

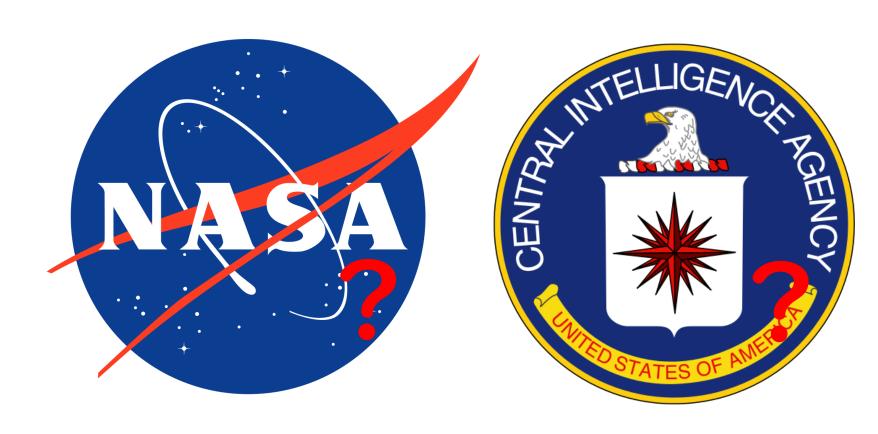
空中クラッター(レーダー反射の際に発生する、不要な雷波、鳥、風船、ドローン、その他の無人が

自然大気現象 ノ山能性のある技術

データ不足。解釈に 更なる知識が必要

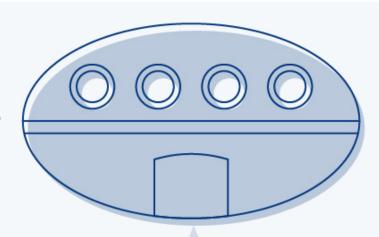
情報の出所:17政府機関

- ·空軍、陸軍、海軍、DARPA(国防高等研究計画局) FAA(連邦航空局)、NOAA(海洋大気庁)
- ・インテリジェンス&セキュリティ国防次官室 国防情報局、海軍情報局、NSA(国家安全保障局)、 ODNI(国家情報局)、NGA(国家地理空間情報局)
- ·FBI(連邦捜査局)、NRO(国家偵察局) など





143
Unexplained UAP sighting reports



気球1 **●**

Explained UAP sighting reports

80件 複数センサーに より追跡 18件

異常な推進技術



UFO?

UAP*の定義

- *: unidentified aerial phenomena
- (A) すぐには識別できない 空中のオブジェクト
- (B) トランスメディア・オブジェクト
- (C) すぐには識別できない 水中のオブジェクト

トランスメディア [transmedium]・オブジェクト

宇宙と大気の間、または大気と水域の間で 遷移することが観察され、 すぐには識別できないオブジェクト

ちょっと寄り道



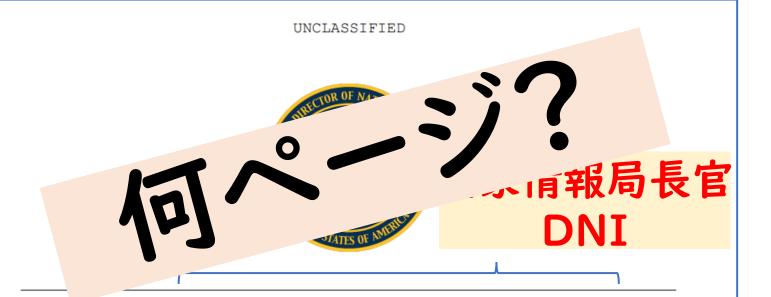


ミリタリーレポート



AAV
Anomalous aerial vehicle

UFO



OFFICE OF THE DIRECTOR OF NATIONAL INTELLIGENCE

予備評価:UAP(未確認空中現象)

Preliminary Assessment: Unidentified Aerial Phenomena

25 June 2021

UNCLASSIFIED 報局長官 125頁 多表前のリ

発表前の), 6月第3週 6月第4週 6月第25日 6月25日 25月78頁9月

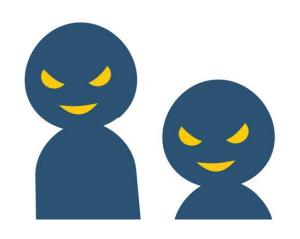
その内容とは2

UAP情報収集に対する 問題点・対策

問題点

1.社会的な烙印

[sociocultural stigmas]



- ・UAPの目撃は、報告したり 同僚と話題にする だけでも 誹謗中傷の材料になる。
- ・科学、政策、軍、諜報の各分野の権威が 真剣に 話題にする機会が増え、こうした烙印の影響は 減ってきている。 が、
- ・それでも 評価リスクは犯したくない、と話さない 目撃者は多く、真相究明が困難になっている。

問題点

2. センサーの限界

[sensor limitations]



- ・軍用機器に搭載されるセンサーは、特定の 任務遂行を念頭に設計される。 そのため、UAP識別には不向きなことも多い。
- ・光学センサー:物体サイズと形状構造を知る 点で、手掛かりを提供してくれる。
- ・ラジオ波距離センサー:速度と行動距離 について、より精度の高い情報が得られる。

UAP情報を収集するための対策

- 1.報告プロセスの統一化、データ統合した分析
 - ·初期は、AI/機械学習を導入し現象を分け、 データ特性をもとに類似点とパターンを識別。
 - ・情報の収集・分析の両方を徹底できるよう、官庁間の分析・処理の業務フローを確立。
 - ・連邦航空局では、UAP・TF(タスクフォース)が、 興味を持つデータを抽出、すぐ使える状態に。

UAP情報を収集するための対策

2.情報収集の拡大

- ・UAP・TFでは、UAPクラスター発生地域で、 情報収集する新しい方法を模索中。
- 3. 研究開発に追加の投資を
 - ・研究開発への追加投資により、UAPを掘り下げる研究が可能になる。
 - ・費用は、UAP情報収集戦略、UAP研究 開発の技術ロードマップなどで予算化。

